

報道関係各位

岩手県立大学 看護学部

若年層向け乳がん・子宮頸がん検診の啓発動画の公開について

岩手県立大学看護学部において、久慈市と株式会社サステナと連携し、乳がん・子宮頸がん検診の受診促進を目的とした学習動画と YouTube 広告を制作しました。下記に記載している研究で明らかになった内容を踏まえて、20～30 代女性のがん検診受診を促す内容構成となっています。毎年 10 月はピンクリボン月間（乳がん検診啓発期間）となっており、この時期にあわせて乳がん検診の受診率向上の啓発も狙っています。

新聞やテレビを通じて広く周知し地域全体で受診率向上を目指したいので、ぜひ取材をお願いします。

1 研究の概要・研究の結果分かったこと

研究代表者：尾無徹

研究期間：2023 年 4 月～2026 年 3 月（現在 3 年目で継続中）

岩手県久慈市（以下、久慈市）は岩手県北東部の沿岸に位置しており、子宮頸がん検診を受診できる施設は市内に県立病院とクリニックが各 1 施設ずつしかありません。最寄りの健診センターは県央の盛岡市にあり、久慈市中心部からは片道 100km 以上、車で約 2 時間を要します。岩手県は県土が広大で、このような課題を抱える市町村は多く、市町村が実施するがん検診の取り組みは重要性が高いといえます。しかし、久慈市によると、2023 年の子宮頸がん検診受診率は 20～69 歳の国民健康保険加入者を母数とした場合で 23.4%でした。特に 20 代は 2.9%、30 代は 7.7%と低い水準となっています。また、保険の種類を限定しない場合の受診率は 15.5%にとどまり、厚生労働省が示す目標値や全国平均よりも低く、受診率の向上が課題となっていました。

そこで本研究では、久慈市在住の 20 代～60 代の女性約 1,300 名を対象に、2024 年 2 月から 3 月にかけてウェブアンケート等を用いた調査を実施し、子宮頸がん検診の受診に関連する要因を分析しました。その結果、若年層（20～39 歳）では「保健師からの勧め」「家族からの勧め」が受診を促す重要な要因であることが明らかになりました。一方で、受診しない理由として「検診の実施時期を知らない」「受診方法がわからない」「検診内容がわからない」といった情報不足が大きな障壁となっていることも示されました。

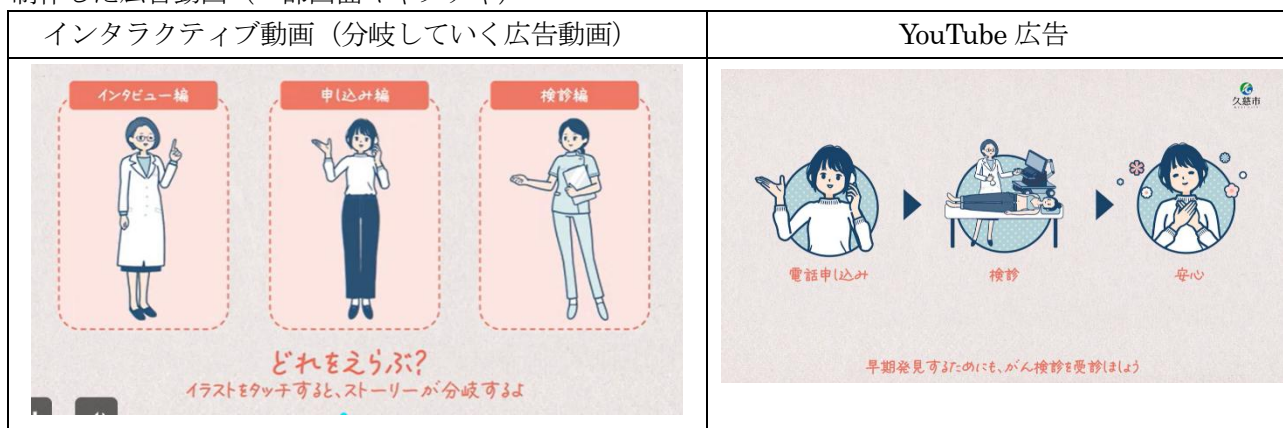
2 研究成果

先述の研究結果を踏まえ、久慈市・株式会社サステナ（岩手県立大学卒業生が代表を務める IT コンサルティング・映像制作会社）と連携し、20～30 代女性向けの乳がん・子宮頸がん検診の啓発動画を制作しました。久慈市でこのような動画を制作して受診勧奨を行うのは、初めての試みです。また、従来の受診勧奨に加え、久慈市の 20 代、30 代に向けた YouTube 広告や久慈市の運営する公式 LINE 等、先進的なツールを活用した受診勧奨に取り組みます。

動画では「保健師や家族からの勧めが受診を後押しする」点や、「検診の内容や受け方が分からない」と受診が進まない」点を反映し、わかりやすい解説や安心感を与える表現を取り入れています。さらに、YouTube 広告を活用し、若年層が自然に情報を目にする仕組みを取り入れました。

動画の詳細は、次ページのとおりです。

● 制作した広告動画（一部画面キャプチャ）



● 広告が流れる期間：2025 年 10 月～2025 年 12 月

● 広告が流れるユーザーの対象：20～39 歳の女性

3 今後の研究成果の活用展望

従来のがん検診の普及啓発は紙媒体や電話による受診勧奨が中心でしたが、若年層における紙媒体離れや、より効果的・効率的な情報提供の必要性を踏まえると、保健師活動の在り方を見直し、対象者のニーズに即した方法へと転換する可能性があります。

本研究と動画制作を通じて得られた知見は、自治体によるがん検診啓発活動に広く応用でき、今後は、乳幼児健診や職場を通じた働きかけに加え、SNS やホームページを活用した情報発信を組み合わせることで、若年層の受診率向上に寄与するとともに、若年期から自らの健康管理を意識する風土の醸成につながると考えられます。

4 取材に当たってのお願い

より詳しい説明も可能ですので、以下の問合せ先へご連絡ください。

【問合せ先】岩手県立大学 看護学部 尾無

電話 019-694-2296

メールアドレス toru_o@iwate-pu.ac.jp



〒020-0693 岩手県滝沢市巢子 152-52 <https://www.iwate-pu.ac.jp/>